

## 特別講演 1

### 「血管、糸球体、尿細管のつながりで考える

#### 新規薬剤登場後の CKD 治療」

大阪府済生会中津病院腎臓内科副部長

血液浄化療法センター長

嶋津 啓二 先生

慢性腎臓病（CKD）治療の目標は患者さんの生涯で心血管死・腎死を避けることにあると考えております。CKD 治療では食塩制限（1日 3～6g）、体重の是正、適切な運動といった生活習慣の改善が非常に重要ですが、短期的ではあまり効果がありません。患者さんご本人だけでなく、ご家族、かかりつけの先生、薬局の薬剤師さんなど、その患者さんが生活する地域を巻き込んで「みんなで腎臓を守る」ことが長期的に生活習慣改善を継続するのに有効です。

一方で、近年 CKD に有効な新規薬剤が登場しております。STOP CKD のために有効な一手はできるだけ選択していきたいところです。CKD で選択されることのある RAS 阻害薬、ARNI、利尿剤、そして SGLT2 阻害薬について腎臓のどの部分に保護的に働くのかを腎動脈、糸球体、尿細管、腎静脈のつながりで考えてみたいと思います。

CKD 患者さんの薬剤選択の参考にさせていただきますと幸いです。